

整理作業でみつけた「なるほど」な情報を、一早くご紹介！

## この資料「ここがみどころ、ここがツボ!!」-整理作業の最前線から「蔵出し」最新情報/File.009-

博物館には「収蔵資料整理」とよばれる、資料を世に出すにあたり基礎となり不可欠な作業（点検・ナンバリング・収納・補修など）があります。この作業では、規模の大小はあれ、日々「新（あるいは再）発見」と「感動」と「謎や問いかけ」があり興味が尽きない一方、コツコツと根気強くなるしかない地味で辛く大変な作業です。

ここでは、そんな整理作業の過程で得られた資料にまつわる「なるほど」で「ほほう」な情報をご紹介して参りますので、皆さんも情報を通じてこの大事な作業の「協働者」になって頂けると幸いです。

今回は夏目漱石門下で研究の第一人者、夏目漱石「三四郎」のモデルでもあるみやこ町出身の小宮豊隆氏資料の中から、いち早くご紹介いたします。

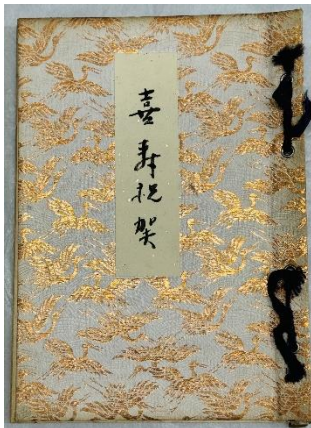
### ■資料名 :小宮豊隆『喜寿祝賀』芳名録

#### ■資料のひとことPR:

この人も！あの人も！「昭和」(昭和30[1960]年代)に活躍された文化人のお名前がズラリ。時代を担った人たちの、まさに直筆サイン集!!

#### ■資料写真 :①「喜寿祝賀」芳名録 ②芳名録内の見開きページ（一部）

#### ③喜寿祝賀会での小宮豊隆夫妻



①喜寿祝賀 芳名録



②芳名録の見開きページ（一部）  
上部左端「市川海老蔵」（歌舞伎役者）、下部中央には「梅原龍三郎」（画家）の署名が見える



③祝賀式の小宮豊隆氏夫妻（豊隆 77 歳・恒 68 歳）

#### ■資料データ File

##### ●形状/材質/法量

表裏紙錦織生地貼 紐綴じ 奉書紙5行罫  
44 頁 220 人分記入可能/タテ 27 cm  
\*ヨコ 19.5 cm\*厚さ 1.8 cm

##### ●制作年代/時代背景

昭和 36 年 4 月 5 日/映画「ALWAYS  
三丁目の夕日」のころ

##### ●注目ポイント

小宮豊隆氏の広い交友関係を垣間見る！

#### ■資料メモ

昭和 36(1961)年 4 月 5 日、東京都千代田区一番町イギリス大使館裏にある「クラブ関東」で小宮豊隆喜寿及び金婚祝賀の会が開かれました。この資料はその時の芳名録で、おめでたい金色の鶴がモチーフの錦織表紙の帳面には、全部で 195 名の方の自筆署名が記されています。祝賀会のプログラムなどは残っていませんが、別資料として残されたアルバムによれば、会は今現在の上皇さまの教育責任者でもあった経済学者の小泉信三による乾杯に始まり、歌舞伎役者・松本幸四郎の万歳、五代目古今亭志ん生の落語や宝生流能楽師の宝生弥一による枕草子の誦の披露など、盛會に執り行われたことが分かります。

芳名録には上記の方々の名前はもちろん、昭和のこの時代、各界で活躍された方々が御名を連ねています。夏目漱石門下の四天王と称された哲学者であり政治家の安部能成、詩人谷川俊太郎の父であり法政大学の総長をつとめた哲学者の谷川徹三、画家の梅原龍三郎や安井曾太郎、作家の円地文子や野上八重子のほか、文化・芸術・科学・教育・実業界など、各人の業績を紹介するには真が足りないほどの著名人や時の人、小宮さんに縁ある方々が、一堂に会する祝賀会でした。時代の文化人たちはこのような場で、交流と会話を繰り広げながら時代の息吹を汲み取り、己の世界もまた上げていったことなのでしょう。そして、そこに穏やかに微笑みながら杖をつき、来し方を顧みる小宮さんの眼差しに、人となりとともに、一時代を築いた文化人としての歩みが垣間見えるようです。

注目すべきは、参加者の自署に表れた「個性」です。その人の手が生み出す筆跡が、自身の個性をも醸し出しているようで、一つ一つの味わい深い名前の字姿から、その方々の人生まで想像できそうな 195 人分の名の「個性」です。「名は体を現す」という言葉を言い得て妙と思わせる興味深い資料です。

#### ■整理担当者のつづき

小宮豊隆という人物を介して、時代を担う人たちが集い、闊達な話題を繰り広げ、多様な人間関係の広がりが伺える芳名録です。会場の賑やかな話し声までもが聞こえてくるようで、思わず、これって「漱石山房（木曜会）」の拡大版?なのかも思ってしまった。

注) 1. この情報は、小宮豊隆資料（第2次寄贈分）一括の整理作業の成果を、整理担当者の視点でまとめたものです。

2. 本文の情報は令和6年7月現在のものです。その後の究明や新資料の発見により見解が改められることもありますので含みおき下さい。

3. 本書に掲載の写真や文章を無断で転載することは禁じられています。